

が、時流にフィットした交流方法を模索していくことも必要かもしれない。

本会は2021年9月をもって世話人会が新体制へ移行した。今後2年間は小枝圭太新会長（東京大学総合研究博物館）のもと、國島大河氏（和歌山県立自然博物館）、園山貴之氏（下関市立しものせき水族館）、田畑諒一氏（滋賀県立琵琶湖博物館）、福田和也氏（広島大学大学院統合生命科学研究所附属臨海実験所）により会の運営が行われる。若手会員のニーズに寄り添った有意義な活動を期待したい。なお、本会では随時入会を受け付けている。詳しい情報は若手の会ウェブサイト（<https://young-fish-isj.wixsite.com/index>）をご覧ください。

最後に、本セミナーに多大なるご尽力をいただいた瀬能 宏氏、和田英敏氏をはじめ神奈川県立生命の星・地球博物館のスタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。初めての試みにも関わらずご参集いただいた参加者の皆さまにも感謝申し上げます。また、設立から今日に至るまで、本会の活動には多くの方々からご支援を賜った。前世話人会を代表して御礼申し上げるとともに、今後も本会への変わらぬご支援を賜りたくお願い申し上げます。

（木村祐貴 Yuki Kimura：日本魚類学会若手の会前庶務：〒599-0311 大阪府泉南郡岬町多奈川谷川2926-1 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター e-mail: KimuraY@o-suishi.in.arena.ne.jp）

魚類学雑誌 68(2):199-199
2021年11月5日発行

編集委員会からのお知らせ

魚類学雑誌での J-STAGE Data の導入について

魚類学雑誌では2022年よりデータリポジトリサービス「J-STAGE Data」（<https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/JstageData/about-char/ja>）を導入することになりました。これにより、本誌でも電子的補助資料（Electronic Supplementary Material: ESM）の使用が可能になります。また、J-STAGE Data に登録される各種電子資料には DOI（Digital Object Identifier）が付与され、論文と ESM との恒久的対応も担保されます。したがって、印刷媒体や頁数の都合で紙面への掲載が難しい電子資料（動画データ、画像データおよび表データ）を論議の材料・根拠として使用することができ、他者がそれらを引用情報として提示することも可能になります。詳細は準備が整い次第に学会ホームページに掲載しますのでご確認をお願いします。不明な点がありましたら、編集委員長の小北、もしくは和文誌主任の田城までご一報ください。

（瀬能 宏 Hiroshi Senou：日本魚類学会会長：〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館 e-mail: senou@nh.kanagawa-museum.jp；小北智之 Tomoyuki Kokita：日本魚類学会編集委員長：〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 九州大学大学院農学研究院動物・海洋生物科学講座 e-mail: kokita@agr.kyushu-u.ac.jp；田城文人 Fumihito Tashiro：日本魚類学会和文誌主任編集委員：〒041-8611 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学総合博物館水産科学館 e-mail: fumihito.tashiro@gmail.com）

会記・Proceedings

魚類学雑誌 68(2):199-201
2021年11月5日発行

2022年度年会のお知らせ

2022年度年会の予定をお知らせします。詳細については2022年4月に出版される魚類学雑誌69巻1号に掲載します。

期日：2022年9月16日（金）-19日（月）

または9月17日（土）-20日（火）

（但し、変更の可能性あり）

会場：大阪公立大学杉本キャンパス

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2022年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は、下記の要領で申し込み書類を作成し、電子メールで担当庶務幹事までお送りください。会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので、あらかじめご了承ください。なおセッションとは、シンポジウムのように1日を費やすほど大規模ではないが、年会参加者に関心の高いトピックを同じ時間帯に集め、1-2時間（1時間あたり最低3人の講演者）を限度に、より突っ込んだ議論をしようというものです。コンパクトなテーマの際には是非ご活用ください。

申込先：〒005-8601 北海道札幌市南区南沢5-1-1-1

東海大学生物学部海洋生物科学科（札幌校舎）
日本魚類学会庶務幹事（年会担当）武藤望生
TEL: 011-571-5111 FAX: 011-573-2525
e-mail: nzmuto@tsc.u-tokai.ac.jp

必要事項：(1) 和文標題, (2) 英文標題, (3) 企画者氏名, (4) 趣旨説明 (1,000 字以内), (5) 演者と演題, (6) 連絡先住所・氏名 (電話, ファックスおよび e-mail).
なお, 標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが, 内容が明瞭にわかるようにしてください. ただし, 実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けてください.

申込締切: 2022 年 1 月 31 日

2021 年度代議員総会, 年会及び関連する会合について

福井県立大学において開催が予定されていた日本魚類学会年会は, 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため, 実行委員会体制を再編し, 昨年度に引き続きウェブ大会 (オンライン方式) に変更となった. 代議員総会は 2021 年 9 月 17 日 (金), 年会は 2021 年 9 月 18 日 (土) -20 日 (月・祝) に実施した. 実行委員会体制を再編し, 代議員総会は 2021 年 9 月 17 日 (金), 年会は 2021 年 9 月 18 日 (土) -20 日 (月・祝) に実施した.

なお, 例年は代議員総会と同日に開催されている編集委員会及び自然保護委員会は, 2021 年 9 月 10 日 (金) 13:00-18:00 及び 2021 年 7 月 12 日 (月) 9:00-12:00 に Zoom のリアルタイム配信によるウェブ開催としてそれぞれ前倒しで実施された.

1. 2021 年度第 1 回代議員総会

9 月 17 日 (金) 13:30-15:30 に代議員 28 名 (委任状 1 名) と会長 (代議員兼務) を含む理事, 監事及び幹事の全員が出席し, 2021 年度第 1 回代議員総会が開催された. 議長には曾我部 篤氏が, 議事録署名人には河合俊郎氏が出席代議員の過半数の賛同により選出された. 議事は以下の通りに進行し, 報告と質疑が行われた. 審議での提案は全て原案通り採択された. 【報告】(1) 2020 年度会務; (2) 2020 年度編集; (3) 2020 年度決算および同監査; (4) 2021 年度収支予算; (5) 2021 年度事業計画; (6) 自然保護委員会; (7) 学会賞選考委員会; (8) 日本魚類学会史委員会; (9) 標準と名検討委員会; (10) 電子情報委員会; (11) 男女共同参画委員会; (12) 広報委員会; (13) 日本分類学会連合; (14) 自然史学会連合; (15) 水産・海洋科学研究連絡協議会; (16) ABS 対策チーム; (17) 理事・副会長候補者および代議員選挙の結果; (18) その他. 【審議】(19) 2020 年度貸借対照表と損益計算書 (正味財産増減計算書) の承認; (20) 2021 年度の新理事・幹事・監事の承認; (21) 一般社団法人日本魚類学会会員及び会費規程の改定案の承認; (22) 名誉会員の推薦. 【その他】(23) 今後の年会開催予定 (2022 年度: 大阪公立大学杉本キャンパス; 2023 年度: 長崎大学文教キャンパス) が確認され, 2024 年度の年会開催地として九州大学にお願いすることが決定した.

2. 日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演

日本魚類学会賞奨励賞は佐藤 駿氏が受賞し, 9 月 18 日 (土) 17:10-17:40 に「シクリッド・シンドローム: 魚の愛に魅せられて」のタイトルで受賞講演が行われた.

論文賞は下記の 3 論文の著者に授与された.

桑原雅之・高橋 洋・亀甲武志・来見誠二・井口恵一朗

「Trace of outbreeding between Biwa salmon (*Oncorhynchus masou* subsp.) and amago (*O. m. ishikawae*) detected from the upper reaches of inlet streams within Lake Biwa water system, Japan. Ichthyological Research 66(1): 67-78.」

角崎嘉史・川西亮太・井上幹生・高木基裕・大森浩二

「Contrasting effects of dams with and without reservoirs on the population density of an amphidromous goby in southwestern Japan. Ichthyological Research 66(3): 319-329.」

桑村哲生・須之部友基・坂井陽一・門田 立・澤田紘太

「Hermaphroditism in fishes: an annotated list of species, phylogeny, and mating system. Ichthyological Research 67(3): 341-360.」

3. 研究発表会・シンポジウム

一般講演の口頭発表第 1 会場と第 2 会場は, 昨年度は Zoom ミーティングルームをそれぞれに設けたが, 今年度は 1 ルームの中のブレイクアウトルーム機能によってそれぞれの会場を設置した. ポスター発表会場は昨年度と同様に Google ドライブによってファイルのダウンロードができない設定とし, コアタイムも設けた上で質疑応答等は Slack によるチャット形式での展開を図った. なお, Slack による質疑応答等の場合は, 口頭発表の講演についても補足的に設けた. 中学生・高校生発表については, 一般のポスター発表と同様の掲示方法としたが, 質疑応答等の場合はコアタイムを設けた上で Zoom のブレイクアウトルームに設置した. 一般 136 題 (口頭発表 45 題, ポスター発表 91 題) および中学生・高校生発表 11 題 (中学生 1 題, 中学生と高校生の混成グループ 1 題, 高校生 9 題) の研究発表が行われた. 参加者は開催期間を通じて約 430 名であった.

なお, 中学生・高校生発表では, 下記の最優秀研究賞 1 題, 優秀研究賞 2 題, 及び奨励賞 2 題が年会実行委員会により選出された.

最優秀研究賞

井上愛菜・西尾彩里・下山小梅・堀川莉緒 (白陵中学・高等学校)
「日本産 *Microcotyle* 属単生類の形態学・分子系統学的研究及び宿主魚類との関係性の検討」

優秀研究賞

奥川陽平・櫻井哲平 (大阪府立富田林高等学校) 「大和川水系石川におけるオオシマドジョウの生態」

金岡大樹 (白陵高等学校) 「ヨシノボリに寄生する *Genarchopsis* 属吸虫類の分布境界の搜索」

奨励賞

小穴快音・中村奏斗 (大阪府立富田林高等学校) 「大阪府で繁殖を確認したイワナの生活史について」

また, 9 月 20 日 (月・祝) には, 下記 1 件の公開シンポジウムが一般講演と同様に Zoom ミーティングにより開催され, 約 190 名が参加した.

「ホトケドジョウ学事始め〜ホトケドジョウ属魚類の進化・生態・保全をめぐる〜」

4. 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞 (外国人学生を含む学生会員対象) は, 昨年度は学会としてウェブ大会を初めて試みたということもあって実施できなかったが, 今年度はポスター発表のみを対象として再開した. 発表賞応募の 51 件から下記の最優秀発表賞 2 題と優秀発表賞 5 題がそれぞれ選出された.

最優秀発表賞

古澤千春 (北海道大学大学院環境科学院) 「ブラウントラウトの

行動睡眠」

武藤 湜（三重大学大学院生物圏生命科学科）「形態およびミトコンドリア DNA から見たミミズハゼ属群の系統類縁関係」

優秀発表賞

伊藤僚祐（京都大学大学院理学研究科）「対照的な淡水環境で放散したハゼ類 2 種群における種間交雑パターンの違い」

小林大純（琉球大学熱帯生物圏研究センター）「九州地方におけるアブラハヤ属魚類の多様性」

是枝伶旺（鹿児島大学大学院農林水産学研究科）「薩南諸島に分布する亜熱帯性の海産ミミズハゼ属魚類の形態と近似種との比較」

東垣大祐（愛媛大学大学院理工学研究科）「河川規模によるアマゴとイワナの産卵場特性の重複度の変化— 1 流程分布を産卵場から考える—」

藤原恭司（鹿児島大学大学院連合農学研究科）「日本産ウバウオ科魚類の分類学的再検討」

5. 懇親会

懇親会は 9 月 18 日（土）18:00-20:30 に講演に続く形で Zoom において開催され、約 140 名が参加した。メインルームではポスター発表のライトニングトークも実施し、38 題の発表希望者が 2 分までの制限時間の中で順番に発表を行った。当初の予定通りに 20:30 を中締めとしたが、その後も昨年度と同様に深夜までオンラインながらも会員間の懇親が図られた。

6. 代議員会・総会抜粋資料

会員数（7 月 31 日付退会・8 月 2 日付入会現在）

会員種別	2020 年	2021 年	増減	
個人	一般会員	912	877	-35
	学生会員	193	200	+7
	外国会員	52	43	-9
名誉会員	7	7	0	
団体会員	75	74	-1	
賛助会員	0	0	0	
計	1,239	1,201	-38	

2020 年度編集報告

(1) 投稿論文

2020 年：306 編（英文誌 262 編，和文誌 44 編）

投稿論文内訳

英文誌：分類 43；系統 3；形態 16；行動 6；生態 75；稚魚 12；遺伝 23；生理 30；その他 54

和文誌：分類 9；系統 0；形態 1；分布 6；行動 1；生態 13；稚魚 3；遺伝 0；生理 1；その他 10

2021 年 7 月 31 日現在：147 編（英文誌 121 編，和文誌 26 編）

投稿論文内訳

英文誌：分類 19；系統 0；形態 8；行動 2；生態 38；稚魚 10；遺伝 12；生理 11；その他 21

和文誌：分類 4；系統 0；形態 0；分布 6；行動 1；生態 7；稚魚 0；遺伝 2；生理 0；その他 6

(2) 原稿受付から出版までに要する日数

英文誌（67 巻 1 号から 67 巻 4 号まで）

受付から出版までの日数

最短期間 141 日；最長期間 593 日；各号の平均期間は 259（67 巻 2 号）から 361 日（67 巻 4 号）

和文誌（67 巻 1 号から 68 巻 1 号まで）

受付から出版までの日数

最短期間 79 日；最長期間 546 日；各号の平均期間は 198 日（67 巻 1 号）から 255 日（68 巻 1 号）

2021 年度一般社団法人日本魚類学会活動方針

(1) 年会の実施及び開催準備

- ・2021 年度年会（ウェブ大会，2021 年 9 月 17 日-9 月 20 日）の実施
- ・2022 年度年会（大阪公立大学杉本キャンパス）の準備
- ・2024 年度年会開催予定地の決定

(2) 代議員選挙と学会賞選考委員選挙の実施

- ・2021-2022 年度代議員の選出
- ・2021 年度で任期終了する学会賞選考委員 4 名に代わる新委員選出

(3) 新幹事会・新代議員体制の発足と移行

(4) 社会とのつながりを意識した活動

- ・市民公開講座の開催（自然保護委員会）
- ・ウェブページの整備（幹事会／電子情報委員会）
- ・広報の拡充（広報委員会）
- ・関連団体との連携強化（標準和名検討委員会）